

代表機関：学校法人 順天堂大学

課題名 悪性腹水の症状緩和を目的とする腹水還流デバイス（腹水ステント）に関する研究開発

分担機関：SBカワスミ株式会社

研究期間：令和7年5月～令和10年3月

研究目的・内容

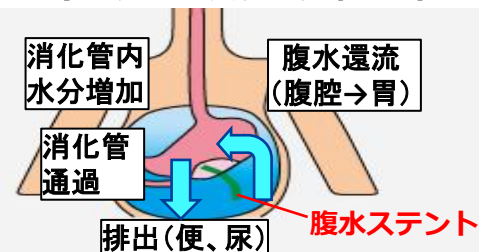
- 腹水症の症状緩和を目的とした、低侵襲な超音波内視鏡治療により腹水ドレナージを可能とするデバイスを開発する。
- 本機器の開発により一度の処置での長期的腹水ドレナージを可能とし、現在の腹水症の治療への臨床課題である、治療の侵襲性や治療頻度といった課題を解決する。
- 胆道ドレナージ治療におけるステント技術と設計を応用し、腹腔内に貯留した腹水を逆流することなく消化管内に還流させる腹水ステントを設計する。

今後の展開

- 腹水症患者に対する新たな治療方法となる腹水ドレナージステント治療を確立し、腹水ステントとして保険適用を目指す。
- 患者及び医療関係者の時間的拘束の削減、医療費の削減、施設的制約による地域格差の解消といった社会的課題への効果を期待し、終末期医療の課題の1つである「希望する場所で最期を迎えること」の実現への貢献を目指す。

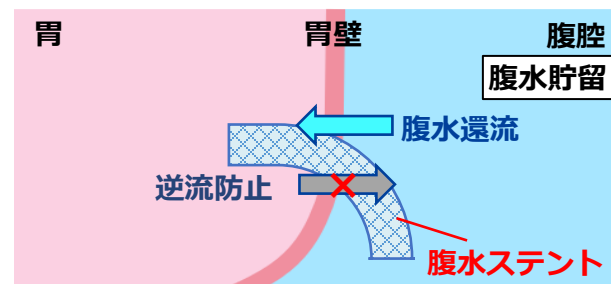
クラス分類：クラスⅢ

腹水ドレナージステント術



- 腹水ステントを用いて腹水を腹腔内から消化管へ継続的に還流させることで、消化管を介した腹水ドレナージ術の確立を目指す。

腹水ステントの模式図



- 腹腔から消化管への一方向の還流を可能とするステントを設計する。